

ライトグループ

(株式会社ライトオート1、株式会社ライト・リース)

ポジティブインパクトファイナンス評価書

2026年7月1日



大垣共立銀行とOKB総研は、ライトグループ（以下、「同グループ」）に対してポジティブインパクトファイナンス（以下、「PIF」）を実施するにあたって、同社の事業活動が環境・社会・経済に及ぼすインパクト（ポジティブインパクト/ネガティブインパクト）を分析・評価した。

この分析・評価は、国連環境計画金融イニシアチブ（UNEP FI）が提唱した PIF 原則および PIF 実施ガイド（モデル・フレームワーク）、ESG 金融ハイレベル・パネルにおいてポジティブインパクトファイナンスタスクフォースがまとめた「インパクトファイナンスの基本的考え方」に則ったうえで、大垣共立銀行とOKB総研が開発した評価体系に基づいている。

目次

1. 企業概要と経営理念、サステナビリティ.....	1
(1) ライトグループの企業概要	1
(2) ライトグループの事業概要	3
(3) 経営理念	5
(4) サステナビリティ.....	6
2. インパクトの特定	8
(1) バリューチェーン分析.....	8
(2) インパクトマッピング	8
(3) インパクトレーダーによるマッピング	9
(4) 特定したインパクト.....	11
(5) インパクトニーズの確認、大垣共立銀行との方向性の確認	14
3. インパクトの評価	16
4. モニタリング.....	18
(1) ライトグループにおけるインパクトの管理体制.....	18
(2) 大垣共立銀行によるモニタリング	18

1. 企業概要と経営理念、サステナビリティ

(1) ライトグループの企業概要

① 株式会社ライトオート1

企業名	株式会社ライトオート1
創業	1981年
設立	1985年5月27日
代表者名	代表取締役 丸山 猛
資本金	1,000万円
従業員	7名(2026年4月時点)
売上高	16.9億円(2025年4月期)
事業拠点	本社 愛知県名古屋市泉三丁目6番9号
事業内容	輸入自動車の販売およびメンテナンス

② 株式会社ライト・リース

企業名	株式会社ライト・リース
設立	2006年8月10日
代表者名	代表取締役 丸山 猛
資本金	500万円
従業員	3名(2026年4月時点)
売上高	4.7億円(2025年6月期)
事業拠点	本 社 愛知県名古屋市中村区名駅三丁目9番24号 板金塗装工場 愛知県名古屋市守山区脇田町90
事業内容	輸入自動車のリース

〈沿革〉

1981年	輸入自動車販売店を個人創業
1985年5月	株式会社ライトオート1設立
1991年3月	春日井店オープン
2000年7月	新社屋建設、現所在地へ移転
2006年8月	株式会社ライト・リース設立



本社ビル



本社ショールーム



グッズスペース



メンテナンススペース

(2) ライトグループの事業概要

【事業内容】

ライトグループでは高級輸入自動車を取り扱う。株式会社ライトオート1では主に個人オーナー向けの販売を、株式会社ライト・リースでは主に法人向けのリース販売を行っている。また、自社内に整備工場を有しており、メンテナンス等の対応も行っている。

<取扱メーカー例>



フェラーリ



ポルシェ



ロールスロイス



ランボルギーニ



アストンマーティン



メルセデス

【同社の強み】

- 独自の仕入れルートを確認しており、多種多様な車種を取り扱うことで、様々な顧客ニーズに合わせた商品展開を可能としている。また、様々な仕入れルートを確認していることで、為替動向に合わせて仕入れ先を調整していくことができ、為替市場の影響を受けにくい仕入れ体制が確立されている。加えて、顧客需要の高い希少車はその特性上値崩れしにくく、そのような車種を確認していくことで高い価値を提供すると同時に経営基盤の安定にもつながっている。
- 自社内に整備工場機能を有し、国内では希少な高級外車のメンテナンス対応を行うことができる。
- 4 階建て本社には各階にショールームを設け、豊富で魅力的な商品を間近で見ることができ、高い商品訴求力を持つ。



- 丁寧なアフターフォローに努めていることで、リピート顧客も多い。顧客からの紹介によって販売機会を得ることも多い他、乗り換え需要による買取も行っており、独自の仕入れルートにもなっている。
- 車両の配送についても、専用のトランスポーターを自社保有しており、全国の顧客への納品対応を可能としている。



- ライト・リースにて取り扱う車両において、リース終了車両をライトオート 1 における中古販売へ転換するなど、2 社の連携により柔軟に販売網を拡大している。

【今後の展開】

- 国内インフラの整備度合いを見ながら EV 車などの新型新商品も取り扱っていく一方、顧客需要を見極めて高品質なヴィンテージ商品を重視し、在庫滞留となりにくい仕入れ環境を整備していく。
- 販売およびリースのどちらにおいても、数年後の乗り換えを前提としたリピーターは同グループにおける重要な顧客であり、より高い価値を提供できるようにしていく必要がある。買い替え時の将来価値を見据えつつ、豊富な商品バリエーションを活かした提案力を磨き、訴求力を高めていく。
- 同グループの主な取り扱い商品である高級車やスポーツカーのみを所有していることは稀であり、リピーター顧客の定着にはその他日常使いの車についての需要を取り込んでいくことも有効であるため、他社との連携やノウハウを高めていく。

(3) 経営理念

同社は以下の理念を掲げて、事業活動に取り組んでいる。

経営理念

魅力溢れる商品を安心と共にお届けする

同グループ独自の仕入れ網により、高品質で豊富な商品ラインナップを展開することを実現している他、販売後のアフターフォローに注力、顧客との関係性を重要視し、安心安全と共に希少な高級外車を所有するという体験を提供していくことを社是としている。

結果、数多くの地元顧客をリピーターとして抱えており、業界での信頼を高めている。

(4) サステナビリティ

同グループでは、以下のようにサステナビリティへの貢献をしている。

<環境面>

- 本業の推進に伴い、中古車流通の促進や丁寧な整備による車両の長寿命化によって、廃棄物の減少に貢献している。
- 車両の損傷などの対応においては、可能な限り交換ではなく修理を行うことで、廃棄物等の削減を行うとともに車両価値の維持を実現している。
- 水銀灯であった本社照明設備はすべて LED に交換を実施した他、社有車に水素自動車を導入するなど、環境負荷の低減に向けた設備投資を促進している。

<社会面>

- 本業の推進に伴い、自動車の流通促進や安心安全なカーライフの実現に貢献し、地域社会・まちづくりの一翼を担う。
- 地元東区警察署への協力を長年継続的に実施、安心安全な地域社会づくりへ貢献している。



警察署からの感謝状

- 子ども食堂への協力や一般社団法人子ども応援プロジェクトへの寄贈を行っており、地域の子育て支援へ貢献している。



子ども食堂参加の様子 (クリスマス)



子ども応援プロジェクトからの感謝状

- 車関連のイベントのスポンサーを多数実施し、業界の向上に寄与している。

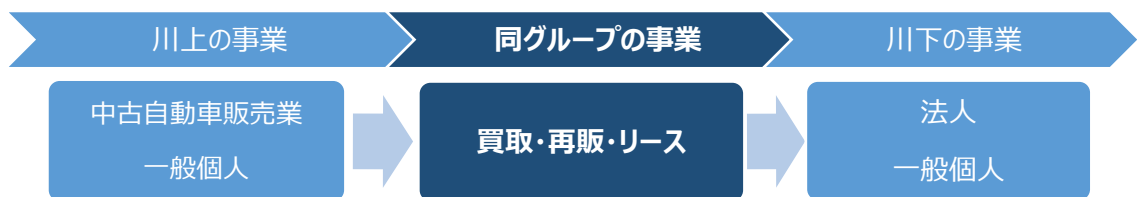
<雇用面>

- 技術者育成へ注力しており、外車の目利きや整備など、専門スキルの向上を促進している。
- 業務上必須となる中型免許や、中古車査定士などの資格取得支援を行っており、社員のスキルアップに貢献している。
- 時間外勤務については徹底した削減を行っており、残業のほとんどない就労環境が整備されているなど、ワーク・ライフ・バランスへの取組も進めている。

2. インパクトの特定

(1) バリューチェーン分析

- 同グループは、愛知県を拠点に高級輸入自動車を取り扱う事業者である。
- ライトオート1は主に個人オーナー向け販売、ライト・リースは法人向けリース販売を担い、顧客層に応じた提供体制を構築している。
- 独自の仕入れルートにより多様な車種を確保し、顧客ニーズに応じた柔軟な商品提案が可能である。また、希少価値の高い車種の取り扱いにより高付加価値を提供しつつ、収益の安定化を図っている。
- さらに自社整備工場を保有し、高級外車のメンテナンスまで一貫して対応できる体制も強みである。



(2) インパクトマッピング

- 大垣共立銀行は、先述のバリューチェーン分析の結果をもとに、インパクトマッピングを実施する。
- 同グループの事業を、「自動車販売業（国際標準産業分類：4510）」、「自動車整備・修理業（同：4520）」、「自動車賃貸・リース業（同：7710）」とする。
- 川上・川下の事業は、インパクトの特定を行わない。
- 以上の事業について、UNEP FI が提供するインパクトレーダーを用いて「ポジティブインパクト（以下 PI）」と「ネガティブインパクト（以下 NI）」を想定する。

(3) インパクトレーダーによるマッピング

バリューチェーン			同グループの事業					
業種 (国際標準産業分類コード)			自動車販売業 (4510)		自動車整備・修理業 (4520)		自動車賃貸・リース業 (7710)	
大分類	インパクトエリア	インパクト	Positive	Negative	Positive	Negative	Positive	Negative
社会	人格と人の安全保障	紛争						
		現代の奴隷制度						
		児童労働						
		データのプライバシー						
		自然災害						
	健康と安全	健康と安全		●		●		●
	資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手頃さ、品質	水						
		食糧						
		エネルギー						
		住居						
		健康と衛生						
		教育						
		移動手段	●●			●●		●
		情報						
		コネクティビティ						
		文化と伝統						
	ファイナンス							
	生活	雇用	●		●		●	
		賃金	●	●	●	●	●	●
		社会的保護		●		●		●
平等と正義	ジェンダー平等							
	民族/人種の平等							
	年齢差別							
	その他の社会的弱者							
社会経済	強力な制度、平和、安定	法の支配						
		市民的自由						
	健全な経済	セクターの多様性						
		零細・中小企業の繁栄	●		●			
	インフラ	インフラ						
経済収束	経済収束							
自然環境	気候の安定性	気候の安定性		●			●	
	生物多様性と健全な生態系	水域						
		大気			●			
		土壌						
		生物種						
	生息地							
	サーキュラリティ	資源強度			●		●	
廃棄物				●		●		

「●●」は重要な影響があるカテゴリを示す

「●」は影響があるカテゴリを示す

同社の事業において発現したインパクトについて、カテゴリ毎の対応するSDGsターゲットを整理する。

	大分類	インパクトエリア	インパクト		取組内容	対応するSDGs	
			PI	NI			
同グループ	社会	健康と安全	健康と安全		○	残業時間はほとんどなく、ワークライフバランスの推進に取り組んでいる。 従業員が健康に働ける環境の整備を目的として、健康経営優良法人の認証取得を検討している。 2014年以降、労働災害ゼロを継続している。	8.8
		資源とサービスの入手可能性、アクセス可能性、手頃さ、品質	移動手段		○	目利き力あるスタッフが独自のルートで良質な中古車を厳選調達し、人気の海外高級車を中心に提供している。 自社内で整備工場を有し、メンテナンス対応もできる。	11.2
		生活	雇用		○	業務に必要な中型免許や、中古自動車査定士などの資格取得に際して費用を負担している。 採用強化にも取り組んでおり、持続的な人材確保と組織の活性化を目指している。	8.5 8.6
	自然環境	気候の安定性	気候の安定性		○	事務所のLED照明化や太陽光発電設備の設置など、CO ₂ 削減に取り組んでいる。	7.2 13.2
		サーキュラリティ	廃棄物		○	バッテリーや廃油のリサイクルを通じて廃棄物削減と環境配慮型経営を実践している。	12.5

※インパクトリーダーで発現したインパクトのうち、上記表に不記載のインパクトは、同社の事業と関連性が低いため、評価対象外とした。

(4) 特定したインパクト

以上を踏まえて、同社のインパクトをESG（環境・社会・ガバナンス）毎に特定した。

環境（Environment）

環境に配慮した経営の推進

- 同社は、本業である高級輸入中古車の販売・リース事業を通じて、環境に配慮した経営を推進している。
- 特に中古車流通の促進と丁寧な整備による車両の長寿命化に注力しており、新車製造時による資源消費の削減、さらには廃棄物の発生抑制に貢献している。
- また、車両の損傷対応においては部品交換に頼るのではなく、可能な限り修理を優先する方針を採用している。これにより廃棄物削減を実現するとともに、車両本来の価値を維持し、顧客にとっても経済的・環境的に意義のあるサービス提供を行っている点が特徴である。
- さらに、本社の照明設備は全て LED へ切り替え、省エネルギー化を実現したほか、社用車には水素自動車を導入するなど、次世代エネルギーの活用にも積極的である。こうした取り組みは事業運営における直接的な CO₂排出削減に寄与している。
- 今後の取り組みとしては、電力使用量を 2029 年度まで毎年対前期比 2%削減する目標を掲げており、2025 年度実績である約 80,000kWh からの着実な削減を図る計画である。また、2030 年度までにライトオート 1 本社への屋根置き太陽光パネルの設置を目指し、再生可能エネルギーの活用を推進する方針である。加えて、バッテリーや廃油のリサイクル率 100%を 2030 年度まで継続することで、廃棄物の適正処理と資源循環の徹底を図っていく。
- このインパクトは UNEP FI のインパクトレーダーでは「気候の安定性」、「廃棄物」のカテゴリに該当し、自然環境面の NI を縮小すると考えられる。
- SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
 - 7.2 : 2030 年までに、世界のエネルギーミックスにおける再生可能エネルギーの割合を大幅に拡大させる。
 - 12.5 : 2030 年までに、廃棄物の発生防止、削減、再生利用及び再利用により、廃棄物の発生を大幅に削減する。
 - 13.2 : 気候変動の緩和、適応、影響軽減及び早期警戒に関する教育、啓発、人的能力及び制度機能を改善する。

社会 (Social)

高品質・高級な自動車の供給による中古自動車市場の価値向上

- 同社は、高品質・高級な輸入車を安定的に供給することで、中古自動車市場全体の価値向上に寄与している。
- 同社は独自の仕入れルートを確立し、多種多様な車種を取り扱うことで、顧客の多様なニーズに応じた商品展開を実現している。さらに複数の仕入れ先を確保することで、為替動向に応じた柔軟な調達が可能となっており、市場環境の変動に左右されにくい安定した供給体制を構築している。特に希少性の高い高級車やスポーツカーについては、価格下落リスクが比較的小さい特性を活かし、高い資産価値を持つ商品として市場へ提供することで、顧客満足度の向上とともに中古車市場の価値維持に貢献している。
- また、自社内に整備工場を有し、国内では対応が難しい高級外車のメンテナンスまで一貫して行える体制を整えている点も強みである。これにより車両性能や品質を高い水準で維持し、中古車であっても安心して利用できる商品として市場に提供している。
- さらに、丁寧なアフターフォローを通じてリピーター顧客を多く獲得しており、顧客紹介や乗り換えに伴う買取も新たな仕入れルートとして機能している。専用トランスポーターの保有により全国対応が可能である点も、販売機会の拡大に寄与している。
- 今後は EV 車など新たな商品領域への対応を視野に入れつつ、引き続き高品質なヴィンテージ車の取り扱いを重視し、需要を見極めた仕入れを徹底する方針である。また、将来的な買い替え価値を見据えた提案力の強化や日常利用車両への対応力向上を通じ、顧客との長期的関係を深化させることで、中古車市場における付加価値創出を一層推進していく考えである。
- このインパクトは「移動手段」のカテゴリに該当し、社会面の PI を拡大すると考えられる。
- SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。

11.2 : 2030年までに、脆弱な立場にある人々、女性、子供、障がい者及び高齢者のニーズに特に配慮し、公共交通機関の拡大などを通じた交通の安全性改善により、全ての人々に、安全かつ安価で容易に利用できる、持続可能な輸送システムへのアクセスを提供する。

安心で働きやすい職場環境の整備

- 同社は、従業員が安心して長期的に働ける職場環境の整備に注力している。
- 特に人材育成を重要視しており、高級外車を取り扱うために必要な目利き力や整備技術の習得を支援し、専門スキルの向上を図っている。また、中型免許や中古車査定士など、業務に直結する資格の取得支援制度を設けることで、社員のキャリア形成とスキルアップを後押しし、技術者の育成と組織力の向上に結び付けている。
- 働き方の面では、時間外勤務の削減を徹底し、残業がほとんど発生しない環境を整備している点が大きな特徴である。これにより、従業員が仕事と私生活を両立しやすいワーク・ライフ・バランスの実現を推進している。

- 加えて、「あいち女性かがやきカンパニー」の認証を取得し、性別にかかわらず全従業員が活躍できる環境整備にも力を入れている。若年層に向けた情報発信を通じた採用強化にも取り組んでおり、持続的な人材確保と組織の活性化を目指している。
- 今後は、2029 年度までに女性を含む複数名の採用を進めるとともに、中型免許保有者や自動車整備士資格保有者の増加を図り、より高度なサービス提供体制の構築を目指す方針である。
- このインパクトは「雇用」のカテゴリに該当し、社会面の PI を拡大すると考えられる。
- SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
 - 8.5：2030 年までに、若者や障がい者を含む全ての男性及び女性の、完全かつ生産的な雇用及び働きがいのある人間らしい仕事、並びに同一労働同一賃金を達成する。
 - 8.6：就労、就学及び職業訓練のいずれも行っていない若者の割合を大幅に減らす。

企業統治 (Governance)

安全で働きやすい職場環境の整備

- 同社は、安全で働きやすい職場環境の整備に向け、従業員の健康と労働安全の両面から取り組みを進めている。具体的には、健康経営優良法人認定の取得を目指し、従業員の健康管理や働きやすい環境づくりを経営上の課題として位置付けている。これにより、日常的な健康意識の向上や職場全体の活力維持を図っている。また、労働災害の発生防止にも注力しており、作業工程の見直しや安全意識の徹底を通じて、安心して業務に従事できる職場環境の構築を推進している。
- このインパクトは「健康と安全」のカテゴリに該当し、社会面の NI を縮小すると考えられる。
- SDGs では、以下のターゲットに該当すると考えられる。
 - 8.8：移住労働者、特に女性の移住労働者や不安定な雇用状態にある労働者など、全ての労働者の権利を保護し、安全・安心な労働環境を促進する。

(5) インパクトニーズの確認、大垣共立銀行との方向性の確認

① 国内におけるインパクトニーズ

- 国内における「SDGs インデックス&ダッシュボード」を参照し、国内のインパクトニーズと同社のインパクトを確認する。
- 上記工程を経て特定した、同社のインパクトに対する SDGs は、「7. すべての人々の、安価かつ信頼できる持続可能な近代的エネルギーへのアクセスを確保する」、「8. 包摂的かつ持続可能な経済成長及びすべての人々の完全かつ生産的な雇用と働きがいのある人間らしい雇用を促進する」、「11. 包摂的で安全かつ強靱(レジリエント)で持続可能な都市及び人間居住を実現する」、「12. 持続可能な生産消費形態を確保する」、「13. 気候変動及びその影響を軽減するための緊急対策を講じる」に対して、国内における SDGs ダッシュボードでは、「12, 13」において大きな課題が残る、「7, 8, 11」において、課題が残るまたは重要な課題が残っており、国内のインパクトニーズと同社のインパクトが一定の関係性があることを確認した。



② 大垣共立銀行が認識する社会課題との整合性

- 大垣共立銀行は、「サステナビリティ基本方針」において「地域経済の持続的成長」「地域のイノベーション支援」「多様な人材の活躍推進」「気候変動対応、環境保全」「地域資源の活用」「コーポレートガバナンスの高度化」の6つを重点課題（マテリアリティ）としている。
- 同社の特定したインパクトは以下の通り、大垣共立銀行の重点課題（マテリアリティ）と方向性が一致する。




同社の特定したインパクト	大垣共立銀行の重点課題 (マテリアリティ)
環境に配慮した経営の推進	気候変動対応、環境保全
高品質・高級な自動車の供給による 中古自動車市場の価値向上	地域経済の持続的成長
安心安全で働きやすい職場環境の整備	多様な人材の活躍推進

以上のように、大垣共立銀行は本件の取組みが、SDGs の達成および貢献に向けた資金需要と資金供給とのギャップを埋めることにつながることを目指している。


3. インパクトの評価

ここでは、特定したインパクトの発現状況を今後も測定可能なものにするため、PI の拡大、NI の緩和・管理が適切になされるかを評価し、特定したインパクトに対し、それぞれに KPI を設定する。


環境に配慮した経営の推進

項目	内容
インパクトの種類	自然環境的側面において NI を縮小
カテゴリ	「廃棄物」「気候の安定性」
関連する SDGs	  
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・日常より社員への省エネに関する意識啓蒙の実施や事務所等の LED 照明への切替えにより使用電力を削減し、CO₂削減を推進 ・太陽光発電設備の設置による再生エネルギーの利用促進 ・バッテリーや廃油の 100%リサイクルを通じて、サーキュラーエコノミーに貢献
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・ライトオート 1 において電気使用量を 2029 年度まで毎年対前期比 2%削減 (2025 年度電気使用実績:約 80,000kwh) ・2029 年度までにライトオート 1 本社に屋根置き太陽光パネルを設置する ・ライトオート 1 においてバッテリー、廃油のリサイクル 100%を継続する

高品質・高級な自動車の供給による中古自動車市場の価値向上

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面において PI を拡大
カテゴリ	「移動手段」
関連する SDGs	
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・自社での中古車の下取りと再販・リースを通じて高級車のリユースに貢献する ・国内外の富裕層向けに取り扱う高級車の品質維持ときめ細かなアフターフォローにより、国内外の販売ルートとの信頼構築・拡大を図る
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・ライトオート 1 の売上高を 2030 年 4 月期までに 25 億円を目指す (2025 年 4 月期実績 : 16.9 億円) ・ライト・リースの売上高を 2030 年 6 月期までに 10 億円を目指す (2025 年 6 月期実績 : 4.7 億円) ・グループでのリユース車両の販売・リース件数を 2030 年 6 月期 (※) までに 120 件/年とする (※グループ各社の年度ベース取り扱い件数を合算する) (2025 年 6 月期実績 : 約 100 件)

安心安全で働きやすい職場環境の整備

項目	内容
インパクトの種類	社会的側面において PI を拡大 社会的側面において NI を縮小
カテゴリ	「雇用」「健康と安全」
関連する SDGs	
内容・対応方針	<ul style="list-style-type: none"> ・初任給や定期昇給の実施による賃金の改善や自社の HP 等での知己の若い世代への魅力発信を通じた採用の強化 ・「あいち女性かがやきカンパニー」の認証取得を通じて全従業員がワーク・ライフ・バランスの実現に向けた職場環境を整備 ・中古車メンテナンス業務に必要な自動車整備士や、納車時の輸送に必要な中型免許などの資格取得を支援し、従業員のスキルアップを図る ・健康経営優良法人認定の取得を通じた従業員の健康に配慮した経営の推進 ・労働災害の発生防止に取り組み、安全で安心な職場環境の構築
KPI	<ul style="list-style-type: none"> ・2029 年度までにグループにおいて 3 名以上（内女性 1 名以上）増やす （2025 年度採用実績：2 名） ・2029 年度までにグループにおいて中型免許の保有者を 5 名にする （2026 年 5 月末時点保有者：4 名） ・2029 年度までにグループにおいて自動車整備士の資格保有者を 1 名採用する （2026 年 5 月末時点保有者：1 名） ・2026 年度中にライトオート 1 において健康経営優良法人認定を取得し、以降維持する ・グループにおいて労働災害発生 0 件を継続する （2014 年以降労働災害発生件数 0 件）

4. モニタリング

(1) ライトグループにおけるインパクトの管理体制

- 同社では、丸山取締役を中心に、本 PIF におけるインパクトの特定ならびに KPI の策定を行った。
- 今後については、本件にかかる責任者を丸山取締役とし、SDGs の推進、ならびに、本 PIF で策定した KPI の管理を行っていく方針である。

(2) 大垣共立銀行によるモニタリング

- 本 PIF で設定した KPI および進捗状況については、同社と大垣共立銀行の担当者が定期的な場を設けて情報共有する。少なくとも年に 1 回実施するほか、日々の情報交換や営業活動を通じて実施する。

【留意事項】

1. 本評価書の内容は、大垣共立銀行とOKB総研が現時点で入手可能な公開情報、同社から提供された情報や同社へのインタビューなどで収集した情報に基づいて、現時点での状況进行评估したものであり、将来における実現可能性、ポジティブな成果等を保証するものではありません。
2. 大垣共立銀行、およびOKB総研が本評価に際して用いた情報は、大垣共立銀行およびOKB総研がその裁量により信頼できると判断したものであるものの、これらの情報の正確性等について独自に検証しているわけではありません。これらの情報の正確性、適時性、網羅性、完全性、および特定目的への適合性その他一切の事項について、明示・黙示を問わず、何ら表明または保証をするものではありません。
3. 本評価書に関する一切の権利はOKB総研に帰属します。評価書の全部または一部を自己使用の目的を超えての使用（複製、改変、送信、頒布、譲渡、貸与、翻訳および翻案等を含みます）、または使用する目的で保管することは禁止されています。